

第4回北区基本構想審議会 部会2「輝き」次第

令和4年2月14日（金）14時

北区役所第二委員会室

1 開会

2 分野別の政策検討シートについて

（1）子ども・家庭

①意見共有

②検討シート説明

③20年後の望ましい姿について（意見・感想）

（2）学校教育

①意見共有

②検討シート説明

③20年後の望ましい姿について（意見・感想）

3 意見交換

4 その他

5 閉会



1 当該分野の実績と成果

項目	主な実績	主な成果
(1) 子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> はぴママたまご面接（対象：妊婦）、はぴママひよこ面接（対象：生後6か月までの子どもの保護者）の実施。 疾病等の問題の早期発見、早期支援を図るため、乳幼児を対象にした各種健康診査や保健師・助産師による家庭訪問と指導助言の実施。 安心ママパヘルパー事業において、令和2年度より産前産後の不安定な時期にある母親をサポートする専門支援員（産後ドゥーラ）による支援を実施するとともに、令和3年度から3歳未満の育児を行っている多胎児家庭で、育児支援・家事支援の必要な家庭を対象にベビーシッターや専門支援員の派遣を開始。 専門相談員（臨床心理士等）による子育て相談の実施（8か所の児童館等で実施）。 	<ul style="list-style-type: none"> はぴママたまご面接利用者数 平成27年度864名→令和2年度3,051名（1.54倍）。面接率 59.6%→100.4% はぴママひよこ面接 平成28年度1,030件→令和2年度1,663件（1.61倍）。面接率 37.0%→55.0% 安心ママパヘルパーの利用者数 令和2年度 利用者 311名 実績 573件 前年比162% 専門相談員相談件数 平成27年度：3,574名→令和2年度：5,180名（1.44倍）
(2) 子育て環境	<ul style="list-style-type: none"> 保育所等の認可定員の拡大 平成28年：6,800名→令和3年：9,606名（2,806名増加、各年4月1日現在） 病児・病後児保育の実施・拡充。2施設（平成29年7月）→4施設（令和3年10月） 放課後子ども総合プラン事業（放課後子ども教室と学童クラブの一体的運営）を実施するとともに、学童クラブの定員拡大。 子ども発達支援センターさくらんぼ園とさくらんぼ園発達相談室を統合し、児童福祉法に基づく福祉型の児童発達支援センターに移行。（令和3年4月） 	<ul style="list-style-type: none"> 待機児童数 平成28年：232名→令和3年：18名（214名減少、各年4月1日現在、待機児童は概ね解消）。 病児・病後児保育の利用者数 平成27年度：263件→令和元年度：829件（3.2倍 令和2年度は新型コロナウイルスの影響で減少） 放課後子ども総合プラン事業を全区立小学校で導入 学童クラブの定員 平成27年：2,530名→令和3年：3,325名。（795名増加、各年4月1日現在） 令和3年度より、児童発達支援センターにて保育所等訪問事業を開始。子どもへの直接的な支援と訪問先職員への助言を行った。
(3) 子どもの権利	<ul style="list-style-type: none"> 虐待の早期発見・早期対応（関係機関との連携を強化）、相談体制の強化。 子育て全般に関する専門相談（心理）の回数を月12回から16回に拡充。 ひとり親家庭等相談支援事業（そらまめ相談室）の設置（平成29年9月）、法律相談、家計相談など各種相談実施。 生活困窮・ひとり親世帯等の小・中学生への学習支援事業の実施・定員拡充。 小学生 平成28年度：定員15名（1教室）→令和3年度：105名（7教室） 中学生 平成29年度：定員40名（2教室）→令和3年度：220名（8教室）※中学生は平成29年10月より事業実施。 子ども食堂の運営団体への支援を開始。令和2年度より、配食・宅食についても支援を拡充。（支援団体数 平成29年度：9団体→令和2年度：17団体。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童虐待支援終了率（児童虐待支援終了件数/児童虐待受理事件数（継続）） 平成30年度75%、令和元年度67%、令和2年度74%。 専門相談（心理）実施件数 平成30年度553件→令和2年度831件 そらまめ相談室面接相談件数 平成30年度：265件→令和2年度：416件（1.57倍） 中学生の学習支援事業の第一志望校合格率 令和元年度：86.4%、令和2年度：87.5%

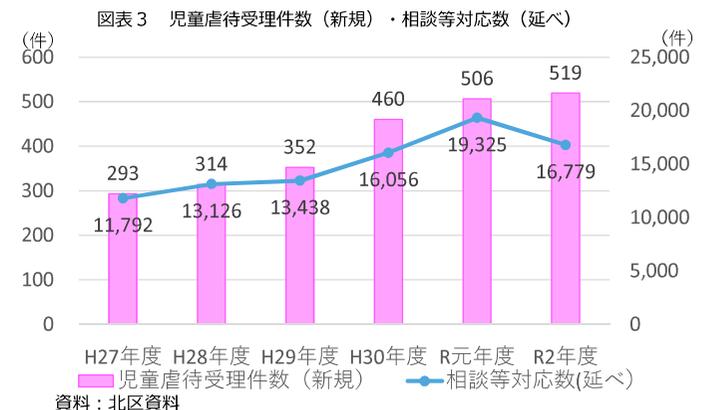
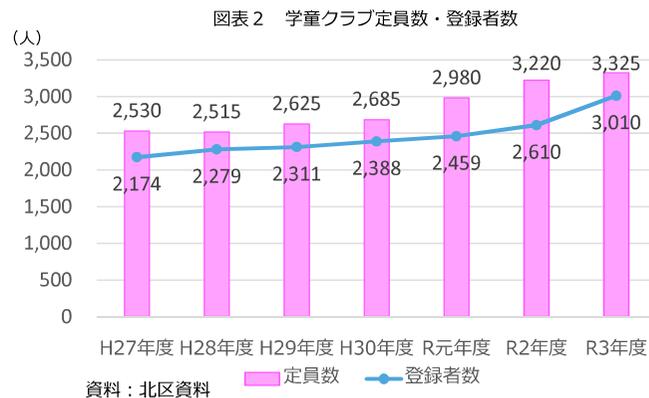
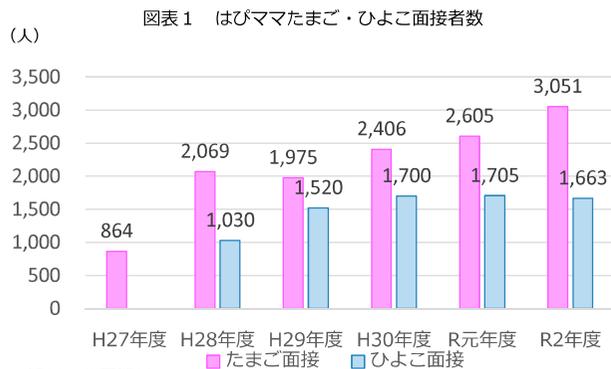
2 当該分野における区を取り巻く環境の変化

社会経済動向	法制度や国・都の政策の変化	区民のニーズや行動の変化
<ul style="list-style-type: none"> 女性の社会進出の進展に伴う「子育て」と「仕事」が両立できる社会への変化。 大型マンションの建設など、子育て世帯の増加。 保育園入園希望者数の増加による学童クラブの利用者数の増加。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年12月 母子保健法の一部を改正する法律が公布（産後ケア事業の実施が市町村の努力義務に）。 平成27年4月 子ども・子育て支援新制度開始。 平成29年4月 地域の需要に応じた多様な保育需要に対応しつつ、安全・安心な保育を行うため、重大事故防止に着目した研修の実施や巡回指導を強化（厚生労働省通知）。 平成30年9月 「新・放課後子ども総合プラン」（全小学校区で両事業を一体的に又は連携して実施）。 令和2年12月 「新子育て安心プラン」を厚生労働省が公表（地域の子育て資源の活用）。 令和3年3月 義務教育標準法の改正（35人学級の本格実施による教室需要の増加）。 平成26年8月 「子供の貧困対策に関する大綱」策定（令和元年11月改定）。 平成28年 児童福祉法改正（児童相談所受理事件のうち、近隣や警察からの通告などで、区市町村が支援を行う方が適切であるケースについては、児童相談所から区市町村へ事案の送致が可能となった。また、政令で定める特別区で児童相談所の設置が可能となる）。 平成30年7月 児童虐待防止対策の強化に向けた緊急総合対策が閣僚会議で決定。 令和元年5月 東京都と区市町村の児童相談体制や今後の区立児相とのあり方等を協議する東京都児童相談体制等検討会が開催。 令和3年4月 東京都こども基本条例制定。 令和3年12月 「こども家庭庁」の基本方針が閣議決定。 	<ul style="list-style-type: none"> 核家族化の進行に伴い、育児の孤立感や不安感を招くことにならないよう、安心して子どもを産み育てることができる、母子保健体制の整備が求められる。 多様な保育サービス及び保育の質の向上が求められる。 児童虐待受理事件数の増加に伴う相談内容の複雑・多様化。



3 区の現状

項目	現状
(1) 子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> 多くの妊産婦が出産や育児に関して不安や負担を感じているが、核家族化が進行し親を頼れないなど、身近に相談者がいない妊産婦が増加。 コロナ禍において、人と人のつながりが希薄になり、在宅で子育てをする親が孤立化。
(2) 子育て環境	<ul style="list-style-type: none"> 保育所の待機児童数は減少傾向にあるが、一方で保育ニーズには地域偏在が発生。また、重大事故を起こさない保育の質の確保が求められる。 放課後子ども総合プラン事業は令和3年度で全校導入したが、学童クラブ利用ニーズの増加に伴う待機児童の発生や35人学級の実施による普通教室不足。 乳幼児親子の居場所と子育て支援の充実、及び、放課後子ども総合プランと連携した健全育成の拠点として、児童館の子どもセンターへの移行を推進。 配慮が必要な子どもへの支援等、保育所等職員の専門性の向上に対するニーズが増加。
(3) 子どもの権利	<ul style="list-style-type: none"> 新規の児童虐待受理件数が、平成27年度（293件）から令和2年度（519件）にかけて1.77倍に増加。この10年間は一貫して増加。相談内容も複雑・多様化している。 北区児童相談所等複合施設基本計画策定（令和3年度）、北区児童相談所設置（令和8年度末） 平成29年3月に北区子どもの未来応援プランを策定。子どもの貧困対策を総合的に推進。 子どもの権利については、児童の権利に関する条約（通称：子どもの権利条約）の基本的な理念を北区教育・子ども大綱や北区子ども・子育て支援計画などに反映。



4 今後の課題

- ◆ 出産・子育て支援へのニーズの多様化に対応し、安心して子どもを産み育てる環境整備。
- ◆ 保育ニーズの地域偏在への対応、及び、保育の質が担保された安全・安心な保育環境の提供。
- ◆ 子どもたちが安全・安心に過ごすことができる放課後の活動場所の確保。
- ◆ 児童館の子どもセンターへの移行に向け、総合相談機能や見守り機能の強化。
- ◆ 発達や障害の相談から療育まで、子どもと家庭に適切な支援の提供。
- ◆ 児童虐待未然防止に向けた取り組みの強化。
- ◆ 子どもに関する総合相談、発達の課題、ヤングケアラー、不登校等に迅速に対応できる体制の充実。
- ◆ 子どもの貧困対策において、区と地域や民間団体、NPO法人など様々な関係機関との連携を強化。
- ◆ 子どもの権利を大切にするという姿勢を明らかにしていくことが必要。

5 取組みの方向性

- 妊娠期から出産・子育て期に渡る切れ目のない支援を継続。
- 人口推計、大規模集合住宅の計画や動向を注視し、地域ごとの保育ニーズの分析に基づく施設配置を行うとともに、保育の質のさらなる向上のため、保育士の処遇改善に向けた取組みを進める。
- 学校施設の有効活用、地域の住民やPTA、NPO、ボランティア等との協働による取組みの充実。
- 子どもセンターの子ども・子育て支援の充実を図るとともに、潜在的なニーズの掘り起こしを行うなど、これまで以上に子どもセンターと乳幼児親子がつながる機会を増やす。
- 発達や障害の相談から療育まで、一貫したサービスの提供と相談機能の強化・充実。
- 学校・関係機関との連携強化による地域全体での虐待予防と早期発見、相談体制の充実。
- 児童相談所等複合施設開設による一体的な支援体制に向けた取組み。
- 子どもに関する総合相談等の体制充実に向け、関係部署と連携を強化する。
- 子どもの貧困対策における協働による取組を推進するとともに、関係機関とのネットワークによる連携を強化。
- 子どもに関する条例の制定について検討。

6 あるべき姿・将来像

・・・今後の審議会の議論により具体化していきます



1 当該分野の実績と成果

項目	主な実績	主な成果
(1) 個性尊重の教育	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な学力向上を図るため、学力パワーアップ事業等の実施。 豊かな心の育成に小・中学校での人権・道徳教育や全生徒を対象としたQ-U等の実施。 グローバル時代に対応した人材の育成として、新聞大好きプロジェクト、理科大好きプロジェクト、プログラミング教材の貸出、英語検定料補助等の実施。 知的障害特別支援学級の拡充（平成27年度14校→令和3年16校）、自閉症・情緒障害特別支援学級開設（2校）。 発達障害等のある児童・生徒を対象とした特別支援教室を全区立小・中学校に設置。 北区学校ファミリー構想のもと、小中一貫教育等連続性を踏まえた教育活動を推進。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査結果（令和3年度） 国語正答率：小6 69.0%（都68.0%、国64.7%） 中3 67.0%（都67.0%、国64.6%） 算数・数学正答率：小6 74.0%（都74.0%、国70.2%） 中3 60.0%（都60.0%、国57.2%） Q-U結果（令和3年度前期） 学級生活満足群の割合：小6 65%（国43%） 中3 61%（国41%） 小中一貫教育の保護者の満足度が増加 60.7%（平成25年）→64.2%（平成30年）
(2) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> 小・中学校の計画的な整備のため、北区立小・中学校長寿命化計画を策定（令和2年3月） 校内無線LAN環境の整備、学習用端末を全小中学校へ導入、電子黒板機能付プロジェクターを機器更新に伴い順次導入、全小学校に国語・算数・理科、全中学校に国語・数学・英語・理科・社会の指導者用デジタル教科書を導入。 東京都北区立学校適正配置計画に基づき、6サブファミリーブロックで協議を実施。 スクールソーシャルワーカーの配置（令和2年4月に1名増員し5名体制） 	<ul style="list-style-type: none"> 改築7校着手し開設5校、リフレッシュ改修7校完了、リノベーション3校に着手。 1人1台の学習用端末の調達及び校内の通信環境の整備によりICTを活用した学習ができる環境が実現。 4サブファミリーブロックで適正配置を実施。
(3) 地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 学校・家庭・地域社会の連携の推進（全小中学校での学校支援ボランティア活動推進事業の実施、学習支援等）。 学校公開講座の実施（年間約20講座）、コミュニティスクールの実施（5校）、学校施設の地域開放の充実（利用時間枠・料金の統一）等。 青少年地区委員会活動の実施（年間約100回）、地域環境づくり推進活動の実施（年間延べ15,000人程度）等。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校支援ボランティア活動延べ人数 9,622人（令和元年度） 学校施設利用状況 5,538件（平成27年度）→12,213件（令和元年度）に増加。 子どもが参加できる地域の活動は十分とする保護者が増加 46.1%（平成25年）→52.5%（平成30年）

2 当該分野における区を取り巻く環境の変化

社会経済動向	法制度や国・都の政策の変化	区民のニーズや行動の変化
<ul style="list-style-type: none"> 年少人口（0歳～14歳）は、令和13年41,004人でピークを迎え、その後減少に転じ令和23年に39,392人に減少と推計。 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う休校、及び運動会・修学旅行などの学校行事が中止する一方、ICTの活用による学習用端末の配布やリモート授業など、新たな取り組みの促進。 	<ul style="list-style-type: none"> 国の教育再生実行会議において、一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せ「ウェルビーイング」の実現を目指した学習者主体の教育への転換を軸とする「ポストコロナ期における新たな学びの在り方について」を提言（令和3年6月） 義務標準法の改正に伴い小学校第2学年以降についても、令和3年度から学年進行で令和7年度までに35人学級となることが決定。（令和3年4月） 国は多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人一人に公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現を目指し、GIGAスクール構想を推進。 STEAM教育など、Society5.0時代を切り拓くイノベーション人材の育成。（「未来の東京」戦略） 幼児教育・保育の無償化の実施（令和元年10月） 幼小の接続を円滑にする連携プログラムの展開。（「未来の東京」戦略） 平成29年の社会教育法改正により、社会総掛かりでの教育に向け、連携協力体制の整備や地域学校協働活動推進員に関する規定を整備し、「地域学校協働活動」を全国的に推進。都では、これまでの「教育支援活動」を基盤により効果的な展開を促進するための各種事業を実施や区市町村への支援を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ、不登校等は、家庭環境や経済的困難などの課題も多く、相談件数が増加傾向。 新型コロナウイルス感染拡大下において、接触を伴わないリモートによる行事等の開催ニーズあり。 区の支援（補助金交付など）を伴わないおやじの会（保護者有志）など、地域住民による子どもの見守り。

3 区の現状

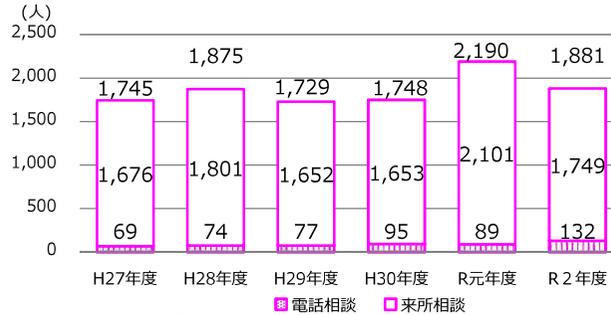
項目	現状
(1) 個性尊重の教育	<ul style="list-style-type: none"> 学力・体力ともに都平均と概ね同程度の結果であるが、より一層の基礎的・基本的な知識及び技能の習得、確かな学力の定着を図ることが必要。 心の育成においては、Q-Uの結果から、小・中学校ともに学級生活に満足している児童・生徒数の割合が高い。 特別支援学級や特別支援教室を設置しているが、在籍する児童・生徒は年々増えている状況。 北区初の施設一体型小中一貫校「(仮称)都の北学園」の令和6年4月開校に向け整備を推進。 幼児教育の重要性を踏まえ、さらさら0年生応援プロジェクトを実施。幼稚園・認定こども園・保育園それぞれにおいて質の高い就学前教育の推進。
(2) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーの配置により、児童・生徒及び保護者からの学校や家庭環境等の相談に対応しているが相談件数は増加傾向。 学校改築・リノベーションによる計画的、安定的な学校施設の整備を推進。児童生徒1人1台端末・デジタル教科書等のICT機器の整備を推進。 年少人口は将来的には減少が見込まれるが、今後10年間は増加傾向。教室不足が発生する一方、適正規模の確保が困難な学校もある。
(3) 地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> スクールコーディネーターを配置し、学校支援ボランティア活動を推進。 学校PTAや保護者有志によるおやじの会、町会・自治会や青少年地区委員等様々な団体による地域コミュニティの活動を実施しているが担い手不足の問題や新型コロナウイルス感染拡大により活動が困難な状況。

図表1 全国学力・学習状況調査の結果

	R3年度		R元年度		H30年度		H29年度		H28年度		H27年度		
	標準化得点	平均正答数(問)	標準化得点	平均正答数(問)	標準化得点	平均正答数(問)	標準化得点	平均正答数(問)	標準化得点	平均正答数(問)	標準化得点	平均正答数(問)	
小学校	国語A	102	100	101	100	99	101	9.7/14	9.1/14	8.7/12	11.3/15	10.8/15	10.1/14
	国語B	標準化得点	ABIに分けず実施		101	101	100	100	4.5/8	5.1/9	5.7/10	6.0/9	
	算数A	102	102	102	100	101	101	11.8/16	9.9/14	9.5/14	11.8/15	12.5/16	12.3/16
	算数B	標準化得点	ABIに分けず実施		101	100	100	101	5.6/10	5.2/11	6.3/13	6.2/13	
	国語A	101	100	100	100	99	99	9.4/14	7.2/10	24.5/32	24.8/32	24.9/33	24.9/33
	国語B	標準化得点	ABIに分けず実施		101	100	100	99	5.7/9	6.6/9	5.9/9	5.8/9	
中学校	数学A	101	100	100	99	100	100	9.5/16	9.6/16	24.4/36	23.6/36	22.0/36	23.6/36
	数学B	標準化得点	ABIに分けず実施		100	100	100	100	6.8/14	7.4/15	6.6/15	6.3/15	
	国語A	101	100	100	100	99	99	9.4/14	7.2/10	24.5/32	24.8/32	24.9/33	24.9/33
	国語B	標準化得点	ABIに分けず実施		101	100	100	99	5.7/9	6.6/9	5.9/9	5.8/9	
	数学A	101	100	100	99	100	100	9.5/16	9.6/16	24.4/36	23.6/36	22.0/36	23.6/36
	数学B	標準化得点	ABIに分けず実施		100	100	100	100	6.8/14	7.4/15	6.6/15	6.3/15	

資料：北区資料
 ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症のため中止。
 ※過去の調査と調査問題が異なることから、年度間の平均正答率による単純な比較はできない。
 ※標準化得点：各年度の調査における、全国の平均正答数(問)がそれぞれ100となるように標準化した場合の得点。

図表2 北区教育総合相談センターにおける教育相談件数の推移



資料：北区資料
 ※不登校、いじめ、家庭環境、発達の課題などに関する相談を幼児から高校生相当の年齢までの子ども本人や保護者、学校の先生より受付。

図表3 年少人口の推計 (0~5歳、6~11歳、12~14歳)



資料：北区人口推計調査報告書 (R3)

4 今後の課題

- ◆ 新学習指導要領の全面実施に伴い、ICT環境を最大限活用して個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた質の高い授業展開が求められる。
- ◆ いじめの未然防止、早期発見及び再発防止を図るとともに、多様化するいじめに対し適切に対応する必要がある。
- ◆ 特別支援学級の地域偏在や発達障害教育の推進に取り組む必要がある。
- ◆ 地域に根ざした特色ある教育活動を推進することが必要がある。
- ◆ すべての幼児が小学校生活に滑らかに接続できるようにする。
- ◆ 教育環境の向上等を目指し、相談支援体制の強化や学校施設の長寿命化、Society5.0時代の学びにふさわしい教育環境の整備に計画的に取り組む必要がある。
- ◆ 年少人口の増加や少人数学級による教室不足に対応していく必要がある。
- ◆ 学校・家庭・地域社会の連携や学校施設の地域開放に取り組む必要がある。
- ◆ 青少年の社会参加の促進や安心・安全な地域環境を整備する必要がある。

5 取組みの方向性

- 個に応じたきめ細かな学習により、確かな学力の向上を図るとともに、GIGAスクール構想における一人1台端末を活用した探究的な学びの実践を通じて、多様な他者と協働して主体的に課題を解決できる力を育成し、変化の激しい時代を「生きる力」を育む。
- アンケートやQ-Uの結果を学級経営に活用し、いじめや不登校、問題行動などの早期発見に努めるほか、人権・道徳教育を通して心の教育を充実。また、教職員の資質・能力の向上を図る。
- 援助や特別な指導が必要な児童・生徒に対し、ニーズに応じた学びの場の提供・充実。
- 北区学校ファミリー構想のもと、学校や地域特性に合わせた教育活動の質の向上を図る。
- 質の高い幼児教育及び健全で心豊かに成長するための支援を推進。
- スクールソーシャルワーカーを活用し、学校や社会資源との連携を深め、相談支援体制を強化。
- 計画的な改築とリノベーション、ICT環境の整備等、学校施設の整備・充実を図る。
- 人口推計や地域開発動向等を踏まえた分析に基づき、適正な教育環境の確保策を検討・実施。
- 学校支援ボランティアの活動の推進、学校施設の地域開放制度の運用方法の見直しを検討。
- 青少年地区委員会を中心に地域の様々な団体と連携し、青少年健全育成活動を推進。

6 あるべき姿・将来像

・・・今後の審議会の議論により具体化していきます

北区基本構想策定に向けた ワークショップ等の実施結果

- ・小学生と区政を話し合う会 2～3ページ
- ・中学生モニター 4～5ページ
- ・高校生ワークショップ 6～8ページ
- ・区民ワークショップ 9～12ページ
- ・各ワークショップのまとめ 13～14ページ

小学生と区政を話し合う会

【概要】 実施日：令和3年10月25日（月） 16:00～18:00
参加者：区立の小学校13校より、小学5年生、6年生36名が参加
テーマ：「20年後の北区のキャッチフレーズを考えよう！」
内 容：6班に分かれて、グループワーク



2

■「北区の好きなところ、こうなっていたらよいと思うこと」

- いろいろなイベントを行っていて、みんなが楽しくすごせる
- 道路へのポイ捨てがない。
- 活気があり、人が優しい
- 唾を吐く人がいない。
- 北区から都へ。国へ。国を良くしたい
- 道路や公園にゴミが落ちていない。
- 交通（網）が発達している
- もっと遊べるところが沢山あればよい
- 公園・児童館が多く、他校と交流ができる
- もっと活気があってほしい
- 自然が豊かで、春夏秋冬楽しめる
- 外国人がたくさんいて、北区の魅力が伝わっている
- おいしい料理を食べられるお店がたくさんあること

北区基本構想

■「20年後の北区のキャッチフレーズ」

「自然と共存する町・北区」

「緑が多く 運動のできるまち 北区」

「ゴミ減少 しっかり取り組む 北区民」

「にぎやかでクリーンな町」

「元気 輝き それが北区！」

「輝きたくさん 元気・活気それが北区！」

「多くの世帯で多くの人住める町」

「みんな『あたりまえの暮らし』ができる北区！」

「帰宅したくなる街 北区」

「ぶらっと来たくなる街 北区」

「来たくなる街 北区」

「行きたくなる街 北区」

「明るく楽しく来たくなる街 北区」

「住んで幸せ 北区」



北区基本構想

中学生モニター

【概要】 実施日：令和3年11月27日（土） 10:00～12:00
参加者：区立の中学生7校 13名が参加
テーマ：「20年後の北区のキャッチフレーズと私たちができること」
内容：3班に分かれて、グループワーク



4

■「北区の好きなところ、こうなっていたらよいと思うこと」

- 学校がきれいなところ
- 自然、緑が多いところ
- 公園が近くにいくつもあるところ
- 街並みがすてき
- 都電や飛鳥山など昔ながらの風景を大切にしている
- 歴史を大切にしている
- 交通網が整っている
- 子どもに優しい 子育てに優しい
- ポイ捨てが比較的少なく清潔
- 観光で訪れる人が増えてほしい
- 自然を守りたい
- 公園で球技をしたい
- 電灯を増やしてほしい
- トップアスリートと交流したい
- 学校で芝居、音楽鑑賞の授業を増やしてほしい
- 保育所を増やしてほしい
- きれいな街にしたい

北区基本構想

■「20年後の北区のキャッチフレーズ」「そのためにできること」

グループ	課題1 キャッチフレーズ		課題2 そのためにできること
1	<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全・レトロなまち北区 ・どの世代も暮らしやすいまち北区 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> S N Sで若い世代へアピール 学校で交通ルールを学ぶ 自治体の活動でのふれあい 北区をまわる 環境を汚さない
2	<ol style="list-style-type: none"> 1.文化のまちKITAKU 2.交流のまちKITAKU 3.世界の人と北区から 4.北区の緑で街も心もすこやかに 5.北区のまちをキレイキレイ 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> アーティストバンクの活用、演劇祭の広報 ボランティア活動、学校同士の交流、ユニセフ
3	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが行きたくなるまち、北区 ・全世代に優しいまち、北区 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> 北区外へアピールする ・インターネットを介した紹介 ・大規模なイベント ・写真コンテスト ・チラシやポスターなどの広報活動

【概要】 実施日：令和4年1月21日（金） 17:00～19:00
参加者：区内の高校に通う高校生 5校 12名が参加
テーマ：「高校生のあなたが思う20年後の北区の将来像とわたしたちができること」
内容：事前課題をもとに3班にわかれオンライン上にて意見交換

■「北区の好きなところ」

- のどかで生活しやすい環境
- 住民同士挨拶をるところ
- 治安が良い
- 商店街から大型商業施設まであり、年齢を問わず住みやすい環境
- 環境美化に積極的なところ
- 交通手段に困らない 都電荒川線が通っている
- 公園など多く、自然豊か。史跡を大切に保存している
- 緑がたくさんあり、教育環境がとても良い
- 子育てしやすいまち
- 高齢者福祉や子育てへの施策に力を入れている

■「北区のイメージ」

- 家族連れにやさしい
- 治安が良くて、住みやすい町
- 商店街が多い
- 公園や川沿い町中のある自然
- 電車、バスなどの利便性がよく多くの人が行き来しているイメージ
- 教育、防災、公園などの施設が充実している
- 高齢者が多い
- 都心の繁華街と住宅地の良さが調和している都市
- 都心のベッドタウン



北区基本構想

■「北区の特徴」

- 交通網が整っており、都内外へのアクセスがしやすい
- 日本を代表する企業の工場や本社などが多い
- 緑や子どもが遊べるような公園が凄く充実している
- 公園や博物館、歴史的建造物などがあり、教育環境が良い
- 商店街が賑わっている
- ボランティアなどに出る方が多い(私含め)
- 子育て制度が手厚い
- 年齢を問わずに住みやすいところ
- 通学中に外国人もよく見かけるため、多様化が進んでいる
- 高齢化が進んでいると同時に、認知症の高齢者やひとり暮らしをする高齢者が増えている
- 人と人との関係が希薄であるところ
- 若い人向けというのがない

■「北区の課題」

- 観光地としての人気が少ない（名所などが知られていない）
- 高齢者だけ、若い人だけではなく年齢関係ないものを作る
- もっと子どもが安心して夜道を歩けるように街灯を増やしたり、活気のある町にすること
- 若者が集うような場所、イベント（祭り）を増やす
- ポイ捨てが多い
- 路地裏が夜暗い
- 人と人との関係が希薄なため、災害の時など、公助だけに頼るのではなく、自助・共助のためにも地域との交流が必要ではないか。

■「20年後の理想の北区の将来像」

- 都電荒川線が20年後も走っている
- 交通網がさらに発達した北区
- バイオバスが多く走っている
- 多くの観光客が訪れる北区
- 災害に強い街
- 医療などがより発展し、病気の早期発見などができ、より長生きする人が増える街
- 人と人が普段から助け合える街
- 同世代の人々はもちろん、異なった世代の人々とも交流できる街

■「将来像のためにわたしたちができること」

- 北区についてより詳しく知り、北区の魅力を発信する（SNS学校で共有）
- 北区の良さを友達に話してみたり、北区のイベントに積極的に参加すること
- 学生である私たちが積極的に北区の施設を利用し活気づける

- 高齢者向けの政策や施設の整備も行われれば良い北区
- 安心して歳を重ねることができる北区
- 若者が集まって区のイベントに参加するような町
- 活気があり、子育てに最適な町
- 自然溢れる北区のままであってほしい
- 街灯などで夜でも歩きやすい雰囲気
- 積極的な情報発信がされている
- 外国人への支援体制がより良くなれば全員が住みやすい北区

- 高齢者にも情報が伝わるようにラジオなどで情報を発信
- 地域の方と学校の交流の場を設ける
- 災害の観点に視点がなかった。災害に興味を持っていきたい。

北区基本構想

区民ワークショップ

9

【概要】対象：区民意識・意向調査の対象者及びwebアンケート回答者のうちの希望者 57名申込み

日時： 第1回：令和3年 9月11日（土） 10:00～12:00

第2回：令和3年10月23日（土） 10:00～12:00

第3回：令和3年12月 4日（土） 10:00～12:00

場所：北とぴあ ※第1回のみ緊急事態宣言中のため、オンライン開催



北区基本構想

第1回 全体テーマ「北区のキャッチコピーを考えよう」

参加者：14名（オンライン開催、3グループに分かれてグループ討議）

テーマ1：「北区の好きなところ」

住みやすさ・暮らしやすさ

- ・ 住みやすい、生活しやすい
- ・ 教育環境・福祉環境がよい、子育て環境に魅力がある

自然環境、歴史・文化

- ・ 緑が多い、植栽がきれい、個性的な公園がある、自然空間がよい
- ・ 飛鳥山公園と中央図書館があり、文化水準が高い

交通

- ・ 利便性・交通の便がよい
- ・ 駅がたくさんあり交通の便がよい、アクセスしやすい

自治意識、多様性

- ・ 区民でまちづくりをする雰囲気がある、自治意識が高い
- ・ 外国人との共生、文化の多様性がある

活気・人情、特産品

- ・ 活気、人情がある
- ・ せんべろの街、北区おでん、特産品が多い

テーマ2：「北区のキャッチコピーを考えよう」

- ・ 「歴史、文化、住環境、教育、やすらぎ、よくばりなあなたにぴったりの街」
- ・ 「I（インキュベーション、育）、C（カラフル、彩）、T（タウン、愛着）」
- ・ 「暮らしにやさしい自然なまち」
- ・ 「歴史があるまち」
- ・ 「歴史と可能性を感じるまち」
- ・ 「未来を考える街」
- ・ 「彩どり豊か みんなの北区」
- ・ 「つながりのあるまち」
- ・ 「おでんで北区はあったかい」
- ・ 「ボーダレスタウン・ボーダレスシティ」
- ・ 「都心に近いと知らない人がハマるかも」
- ・ 「誰もが自由に移動できる」

北区基本構想

第2回 全体テーマ「こんな北区になってほしい！」

参加者：20名（4グループに分かれてグループ討議）

テーマ1：「北区の大事にしたいこと、残念なところ」

大事にしたいこと

- ・ 子育てしやすい、物価が安い、治安がよい
- ・ 住民の参加がある、人情味、あたたかみ
- ・ 個性ある地域、あたたかい商店街
- ・ 史跡、祭り、歌、せんべろ
- ・ 緑や自然、個性豊かな公園、街路樹
- ・ 交通の便がよい、移動しやすい
- ・ 国際交流、教育レベル、誇れる図書館、学校・大学

残念なところ

- ・ 知名度が低い、特色が見えにくい
- ・ 坂・段差が多い、ベンチがない
- ・ 風景がさびしい、水害の恐れ
- ・ 王子駅は区を中心なのに、バリアフリー化されていない
- ・ 働く場が少ない、有力な企業が少ない
- ・ ショッピングモールがない
- ・ Wi-fi環境が弱い、電波障害
- ・ 変革望まない区民性、自信がない

テーマ2：「20年後、こんな北区になって欲しい」

- ・ 「タワマンなしで程よく発展！」
- ・ 「創造的な街 課題を抽出して、自ら解決できる」
- ・ 「北区ドリーム」
- ・ 「緑が多くて安全でデジタル化が進んで若者の多い人気の街」
- ・ 「多様な人が生き生き暮らせる！」
- ・ 「包容力のある街」
- ・ 「住みやすい街」
- ・ 「おもしろい街！」
- ・ 「活気ある商店街」
- ・ 「安全で住みやすい街」
- ・ 「安心・安全に仕事もできる！」

第3回 全体テーマ「こんな取組みをしていこう！」

参加者：19名（4グループに分かれてグループ討議）

テーマ：「こんな取組みをしていこう！」

健康・福祉（高齢・障害）グループ

- 北区の福祉行政の見える化と棚卸し
- 高齢・障害についての全ての年齢層への教育推進
- 高齢者も子ども・障害者も集まれるコミュニティ・仕組みづくり
- このテーマに関する予算・人材が少ないのでは？

子育て・教育グループ

- 地域コミュニティで子育て！ IT活用必須
- 地域差のない子育てインフラ
- 多様な子育て家庭をサポート
- 北区のよさを残し、生かした子育て、IT教育・充実は必須、経済支援

産業、観光・シティプロモーション、コミュニティ・文化・生涯学習グループ

- 日常的なイベントによるコミュニティづくり
- 区の共創プラットフォーム化を進める（区民特派員など）
- 市民がつくる北区のラジオ・テレビ・インターネット

防災・防犯、道路・交通、都市計画、環境グループ

- 防災のDX化（町内掲示板デジタル表示、避難情報発信（スマホ等） ★テクノロジーの活用
- コミュニティづくり（公園の活用：防災公園、北区民マルシェ、キャンプできるように、カフェ、北区セントラルパーク）
★協力・助け合いを当たり前

ワークショップ概要（北区のすきなところ）

	小学生	中学生	高校生	区民
参加者数	36名	13名	12名	延53名
意見	<ul style="list-style-type: none"> • いろいろなイベントを行っていて、みんなが楽しくすごせる • 活気があり、人が優しい • 北区から都へ。国へ。国を良くしたい • 交通（網）が発達している • 公園・児童館が多く、他校と交流ができる • 自然が豊かで、春夏秋冬楽しめる • 外国人がたくさんいて、北区の魅力が伝わっている • おいしい料理を食べられるお店がたくさんあること 	<ul style="list-style-type: none"> • 学校がきれいなところ • 自然、緑が多いところ • 公園が近くにいくつもあるところ • 街並みがすてき • 都電や飛鳥山など昔ながらの風景を大切にしている • 歴史を大切にしている • 交通網が整っている • 子どもに優しい 子育てに優しい • ポイ捨てが比較的少なく清潔 	<ul style="list-style-type: none"> • のどかで生活しやすい環境 • 住民同士挨拶をするところ • 治安が良い • 商店街から大型商業施設まであり、年齢を問わず住みやすい環境 • 環境美化に積極的なところ • 交通手段に困らない 都電荒川線が通っている • 公園など多く、自然豊か。史跡を大切に保存している • 緑がたくさんあり、教育環境がとても良い • 子育てしやすいまち • 高齢者福祉や子育てへの施策に力を入れている 	<ul style="list-style-type: none"> • 生活しやすい • 教育・子育て環境・福祉環境がよい • 緑が多い、個性的な公園がある • 飛鳥山公園と中央図書館があり、文化水準が高い • 駅がたくさんあり、利便性・交通の便がよい • 区民でまちづくりをする雰囲気がある、自治意識が高い • 外国人との共生、文化の多様性がある • 活気、人情がある • せんべろの街、北区おでん、特産品が多い

ワークショップ概要（20年後の北区のキャッチフレーズや将来像）

	小学生	中学生	高校生	区民
参加者数	36名	13名	12名	延53名
意見	<ul style="list-style-type: none"> 自然と共存する町・北区 緑が多く運動のできるまち北区 ゴミ減少 しっかり取り組む北区民 にぎやかでクリーンな町 元気 輝き それが北区！ 輝きたくさん 元気・活気それが北区！ 多くの世帯で多くの人が住める町 みんな『あたりまえの暮らし』ができる北区！ 帰宅したくなる街 北区 ぶらっと来たくなる街 北区 来たくなる街 北区 行きたくなる街 北区 明るく楽しく来たくなる街 北区 住んで幸せ 北区 	<ul style="list-style-type: none"> 安心・安全・レトロなまち北区 どの世代も暮らしやすいまち北区 文化のまちKITAKU 交流のまちKITAKU 世界の人と北区から 北区の緑で街も心もすこやかに 北区のまちをキレイキレイ みんなが行きたくなるまち、北区 全世代に優しいまち、北区 	<ul style="list-style-type: none"> 都電荒川線が20年後も走っている 交通網がさらに発達した北区 バイオバスが多く走っている 多くの観光客が訪れる北区 災害に強い街 医療などがより発展し、病気の早期発見などができ、より長生きする人が増える街 人と人が普段から助け合える街 同世代の人々はもちろん異なった世代の人々とも交流できる街 高齢者向けの政策や施設の整備も行われれば良い北区 安心して歳を重ねることができる北区 若者が集まって区のイベントに参加するような町 活気があり、子育てに最適な町 外国人への支援体制がより良くなれば全員が住みやすい北区 	<ul style="list-style-type: none"> タワマンなしで程よく発展！ 創造的な街 課題を抽出して、自ら解決できる 北区ドリーム 緑が多くて安全でデジタル化が進んで若者の多い人気の街 多様な人が生き生き暮らせる！ 包容力のある街 住みやすい街 おもしろい街！ 活気ある商店街 安全で住みやすい街 安心・安全に仕事もできる！